

信 月(しんげつ)

登録番号：第3175号

登録年月日：平成4年7月24日

登録者：長野県(長野県長野市大字 来
字南長野字幅下692-2)

育成者：東城喜久 小林祐造 山西 育 成 地：長野県須坂市(長野県果樹
久夫 木原宏 柴寿 今川 試験場)

昌平 宮沢孝幸 羽生田忠

敬 小松宏光 山下裕之

歴：「新潟大実」と「チルトン」の
交雑実生

育 成 地：長野県須坂市(長野県果樹
試験場)

特 性

■栽培特性

樹姿は開帳性を示し、樹勢は「信州大実」と同程度で強く、樹は大きい。幹および枝梢は暗褐色で「新潟大実」より太く、節間も長い。短果枝の形成は良好である。ただし、開帳性が強いので、主枝や亜主枝が下垂しないように強めの切り返しが必要である。

育成地における開花期は4月中旬で、「平和」「新潟大実」「信州大実」と同時期である。花は一重で普通咲き、大きさは大きく、花色は白色である。葉身の形は円状広卵形で、大きさは中程度、葉面の毛は無～少、葉色は緑色である。

花芽の着生は多く、自家稔性である。異常花は少なく、結実良好である。生理的落果も少ないため、生産は安定しており豊産性である。結果量は多く、着果過多に陥りやすいので、摘果を励行し適正着果量に調整する。

成熟日数は満開後約97日であり、育成地において7月下旬に成熟する晩生種である。「信州大実」より5日程度遅れて成熟する。

■果実特性

果形は短楕円形で、「信州大実」「新潟大実」よりやや縦長である。果頂部の形は平ら、広さは中程度である。梗あ部の広さは広く、深さは中程度である。赤道部の縫合線の深さは浅い。1果重は80～90gと大きく、玉摘いは良好である。果皮の地色は橙黄色で陽光面の着色は少ない。裂果は「平和」や欧州系品種に比べて少ないが、雨の多い年には梗あ部の縫合線上に発生することがある。

果肉色は橙色、肉質は中で、果汁は多く、渋味はない。香気はわずかに認められる。甘味は中程度で、糖度は屈折計表示で10～11%、酸度はpH3.7程度で「平和」「新潟大実」「信州大実」と比べて少ない。微酸性で食味が優れるため生食用として期待できる。

核は「新潟大実」より大きく、楕円で濃褐色を呈し、離核である。

加工適正はシロップ漬けとして優れる。ただし「信州大実」に比べて糖液の透明度がやや劣る傾向がある。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

胴枯病に対してやや強く、その他特に問題となる病害は認められない。通常の防除を実施していれば問題はない。

■地域適応性

樹体の耐寒性はやや強く、適応性範囲は広いと思われる。土層が深く、排水良好な肥沃地に適するが、ももに比べて耐乾性が強いので、比較的乾燥する場所でも栽培可能である。

気象条件として、開花期と収穫期に降雨が少ない地帯が適する。また開花期が早いので、霜穴、霜道に注意して植栽する。

(田尻勝博)